

## 研究計画概要

助成年度・種別	2019年度 一般研究助成
研究代表者	越智 啓太
所 属	法政大学文学部
研究テーマ	男性のDV 被害認知プロセスと対処方略に関する研究
研究計画概要	<p>ドメスティックバイオレンスやデートバイオレンス(ハラスメントといわれているものも含める)についての公的な調査では、加害者は男性、被害者は女性であることが多いという結果が得られることが多い。しかし、近年のより詳細な研究において、男性も女性のみか、それ以上に被害に遭っている場合があることがわかってきた。しかし、男性の場合、自分が受けている暴力やハラスメントを「DV」であるということを認知せず、「自分がDV 被害者」だとは思わないというのである。このような認知の偏り、歪みによって、男性が被害を受けている場合、DV は、発覚しにくく、かつ、公的な機関などによる、さまざまな支援がしにくいという現状もある。</p> <p>そこで、本研究では、ドメスティックバイオレンス、デートバイオレンスの性差について、より詳細に調査するとともに、男性は自分が受けている行為について、それをどのように「バイオレンス・ハラスメント」だと認知するのかについて明らかにしてみたいと思う。また、この調査結果を基にして、男性のDV 被害者への援助の方策について具体的なプランを提案していきたいと思う。</p>
選考委員からのコメント	<p>最近増加傾向にあるといわれる男性DV 被害の認知プロセスの解明をめざした研究である。不誠実な回答の除外やスペシャルパネルの設定など、Web 調査の課題の克服に関する申請者のこれまでの実績を活かし、エビデンスに基づいた対処方略を進めるべく、この実証的研究の成果を期待する。</p>